

市指定史跡

# の だ 野田城 (愛知県新城市)



野田城遠景（北から）

元龜3年(1572)、三方ヶ原の戦いで徳川家康に勝利した武田信玄は、そのまま西へ進軍して、翌年に徳川方の野田城に攻めました。この「野田城の戦い」でも勝利を収めた武田信玄でしたが、その直後、甲斐へ戻る途中に息を引き取ったと伝えられています。

野田城はまさに、『信玄、最後の城攻めの地』だったのです。

## 野田城の縄張り

野田城は、南北に細長く延びる丘陵地に合わせて3つの曲輪を縦に配した連郭式の城郭です。丘陵先端部の最南部に主郭を配置し、南北約60m、東西約47mでその周囲を高さ1m前後の土塁で囲まれています。その内部には井戸が1箇所、南北2箇所の出入り口が認められ、虎口は土塁からの横矢掛けを意識した構造となっています。



野田城絵図（出典：菅沼家譜）

中央部の曲輪は約 50m の方形を呈するものの、全体的に後世の開墾等で著しく地形が改変されています。最も北側に位置する曲輪は、約 40m 四方で北西部が突出した形状となります。この場所は、土塁状の高まりと溝状の窪みが認められ、近世絵図から「丸馬出し」の遺構の可能性が高いとされています。

## 野田城の歴史

### 築城～廃城

野田城は、永正 13 年(1516)年に菅沼定則が築城したと伝えられています。はじめ定則は南東方向に約 1km 離れた場所にあった「野田館」に居住していましたが、たびたび水害を被り、また、防備も不十分であったことから、新たな城郭を築くことを決めたとされています。しかし、吉田城や長篠城の築城時期と同じ頃でもあることから、東三河地域を支配下においた今川氏の影響下で築城された可能性も推測されます。

享禄 2 年(1529)、定則は松平清康の東三河侵攻の際にその配下に加わり、天文 4 年(1535)に清康が没すると再び今川方となりました。しかし、永禄 3 年(1560)に今川義元が桶狭間で戦死すると、翌年にまたも松平(徳川)方に寝返りました。

その後、天正 3 年(1575)までの 15 年間に今川軍や武田軍から数回の攻撃にさらされたものの、城主の菅沼定盈は帰属を変えることはありませんでした。「長篠・設楽原の戦い」に織田・徳川軍として定盈は参戦し、天正 18 年(1590)年に家康の関東移封に伴って廃城を迎えました。

### 野田城と大野田城

元龜 4 年(1573)に武田信玄の攻撃を受けた野田城は、大きな被害を受けました。このため、城主の定盈は野田城の修理のため、一時的に居城を大野田城に移していました。天正 3 年(1575)、「長篠・設楽原の戦い」が開始される直前に大野田城は武田勝頼に攻められたといわれ、ここでは武田軍との籠城戦が出来ないと考えた定盈は、城に火を放って退却したといわれています。

### 《野田城跡へのアクセス》

所在の場所: 新城市豊島字本城 地内

公共交通機関: JR 飯田線野田城駅下車徒歩 20 分。

自家用車: 新東名高速道路 新城 IC から国道 151 号を經由して約 15 分。

### 《お問い合わせ》

〒441-1305

愛知県新城市竹広字信玄原552

新城市設楽原歴史資料館

TEL・FAX 0536-22-0673

E-mail shitara@city.shinshiro.lg.jp

(火曜・年末年始休館)

